



「大学院医系科学研究科」設置

大段 秀樹 大学院医系科学研究科長

平成14年に大学院医歯薬学総合研究科が設置され、その10年後の平成24年には保健学研究科が統合され、医歯薬保健学研究科が創設されました。医学、歯学、薬学、保健学が融合した我が国初の医療系教育・研究拠点です。以来7年間、医系科学分野の学生が同一の研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩を繋げて参りました。霞キャンパス内にある大学病院、原爆放射線医科学研究所及び自然科学研究支援開発センターとも密に連携して、学際的教育・研究活動、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、異分野融合によるInter-Professional Educationの充実と実践など、柔軟な教育・研究体制が構築されています。

この度、平成31年4月、広島大学の機能強化に向けた組織再編の嚆矢として医系科学研究科が設置されました。医系科学研究科では、教育・研究のさらなる融合とともに、他の研究分野との横断的なプログラムを提供できる教育課程が編成されています。これによって、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することで幅広い知識を修得することが可能となりました。また、同時に開設されました統合生命科学研究所とも強く連携して、共通の教員で構成される分野横断型の学位プログラムも設置されています。このような組織形態は、専門性を保ちながら迅速に社会実装・グローバル化を実現する為には、非常に有効であると思われまます。医学・歯学・薬学・保健学のそれぞれの分野における縦断的研究の深化を基盤として、ミッションのための横断的な分野間の連携・融合を活性化させ、新たな学術体系の創造が期待されます。

本研究科のような総合研究科の魅力と存在意義は、学問の多様性にあります。現在、多くの学問分野が過剰に専門化しています。それぞれの専門家が、自身の専門以外への関心を失くし、狭い研究分野に閉じこもってしまえば、発想が狭小化して革新的な研究から遠ざかってしまいます。一見、かけ離れた領域と思われる研究の中に、本質をひも解く手がかりが見出せることもあります。本研究科で行われている研究は、医療系という括りの中で実に多彩です。「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」及び「発生・発達・成長期医療」といった、さまざまな研究が自由な発想のもと実施されています。それぞれの専門領域で知識と情報を共有する学際的研究推進部会を組織する一方で、多様性を享受し得るように部会を超えた共通セミナーを企画して参ります。

100年後にも世界で光り輝く大学であることを目指す本学において、単に100年後を予測するにとどまらず、幸福な100年後を創り出す人材を排出し続ける研究科でありたいと思っております。どうぞ、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。